

計画構想・概要（調査研究）

課題分類	「代替医療の科学的評価手法の開発」
課題名	「代替医療の科学的評価手法の指針の開発」
代表者名	「吉川 敏一」
中核機関名	「京都府立医科大学」

調査研究の目標・概要

1. 目的・目標

近年、代替医療に関する情報がメディアに取り上げられる機会も増え、受診機会を求める患者も急増している。一方、諸外国においても同様の状況が見られ、代替医療を取り入れる統合医療は、世界的に新しい医学の潮流となりつつある。1992年には世界に先駆けてNIH（米国国立衛生研究所）内にOAM（Office of Alternative Medicine：代替医療事務局）が設置され、全米の各大学にも代替医療関連の研究センターが設立されているのが現状である。一方、我が国においては、組織的な取り組みはほとんど行われていない。代替医療は個人別の対応が中心であり、西洋医学で用いられる統計学的な処理では、それを十分に評価することができない。近年、関連学会において各種の評価方法の検討が行われ始めているものの、その方法論は未だ確立されているとは言い難く、早急な対応が求められている。

2. 内容

本調査研究は、先ず医療の各分野の評価方法に関し、現存する方法論を調査し、分析、整理する。その上で、個人差を尊重しつつ少なくとも半定量的な評価を可能とする要素、あるいは条件などを検討し、新たな評価方法を開発するための指針を設定するものである。指標としては、以下のようなものを予定している：

- (1) 医療やケアにおけるQOLのスコアで表示しうる評価指標の開発
- (2) 健康食品を評価するためのバイオマーカーの開発
- (3) 精神現象のMRI、PET、レーザ計測などの医工学手法を利用した指標の開発

3. 実施体制

研究代表者の所属機関である京都府立医科大学を中核機関として、聖マリアンナ医科大学、京都大学等のサブグループから成る調査研究体制を構成する。また、公益法人シンクタンクである未来工学研究所において、統合医療分野のキーパーソンであるJACT理事長の渥美和彦東京大学名誉教授の指導の下にプロジェクトチームを構成し、指針案のとりまとめに関する事務作業を行う。

調査研究の成果がもたらす利点

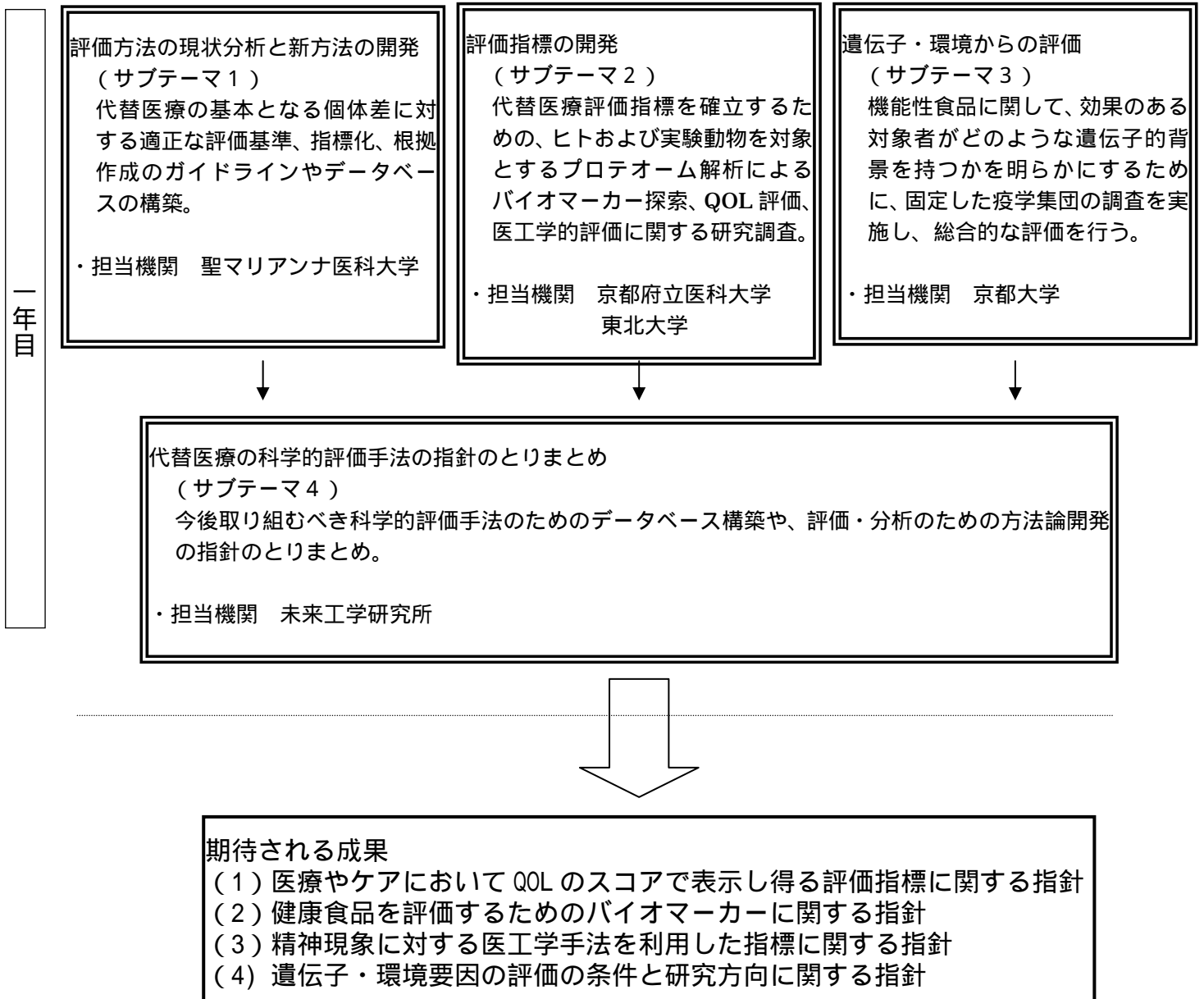
代替医療は一般的に毒性や侵襲性の少ない治療法であり、また西洋医学では諦められているような難病や症状をも対象とする可能性を有している。このような代替医療を取り入れた統合医療を推進することにより、医薬品の副作用や医療費高騰などの現代医学の問題点を解決し、医療の質の向上にも貢献することが期待される。

実用的な代替医療の評価体系そのものを構築し活用していくためには、今後、膨大なデータの蓄積と検証作業が必要とされるが、本調査研究によって、そのような作業を合理的に進めていくための指針が得られるものと期待される。

調査研究体制図

課題分類 「代替医療の科学的評価手法の開発」
課題名 「代替医療の科学的評価手法の指針の開発」
代表者名 「吉川 敏一」
中核機関名 「京都府立医科大学」

(機関ごとの調査研究の分担と実施期間)



バイオマーカーによる評価

多型(SNPs)解析による
遺伝子プロファイル測定

遺伝因子

疾病になりやすさを知る

食事・生活習慣の改善指導

環境因子

不足を補い、危険因子を避ける

バイオマーカーによる疾病進展予防

ストレス度、リラクゼーションならびにQOLの評価

QOLの評価

SF-36
EuroQOL
など

心理学的評価

STAI(不安度)
POMS(うつ状態)
HADS(不安度・うつ状態)
QR(リラクゼーション度)など

ストレス軽減
リラクゼーションの評価

生理学的評価

指尖容積脈波、皮膚温、皮膚電気抵抗、
R-R間隔、脳波、血液中ホルモン、
カテコラミン測定など

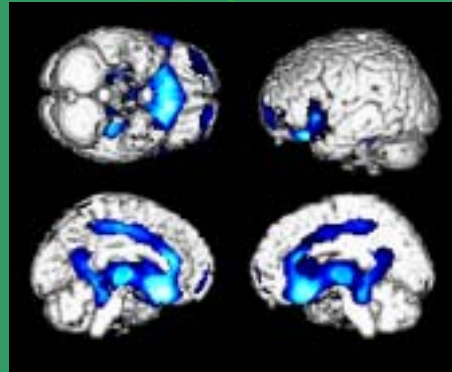
免疫学的評価

T細胞、B細胞、NK細胞の数と活性
サイトカイン、IgA測定など

“感情”の医工学的計測

- がん患者の苦悩の画像化例 -

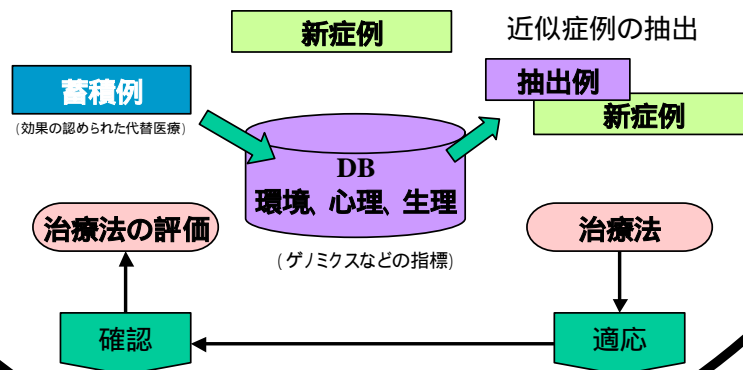
Hypometabolism in Cancer Patients



Tashiro M, et al. Hypometabolism in the limbic system of cancer patients observed by positron emission tomography. Psycho-oncology 8: 283-286, 1999

適切な代替医療選択のための 事例推論データベースの開発と評価

Case-based reasoning best case method



代替医療の科学的評価手法の指針